

講義名	教養特講（プレゼンテーション技法実践）			授業形態	
担当教員	松岡 陽子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

前期『教養特講（プレゼンテーション技法入門）』では、あらかじめ設定された統一テーマに沿って実践を行いながら、いわばプレゼンテーション技法の「型」習得を目指した。それに続く本授業では、ビジネスパーソンとしての社会的実践により近い形で、プレゼンテーション技法の応用的展開を目指す。すなわち、より社会の現実を踏まえた企画や課題を受講生のみなさん自身が考案、発見して、情報収集・分析も自分たちで行いながら、独自のプレゼンテーションを構想し、実践していかせてもらう。授業方法は『教養特講』を踏襲し、グループワーク（協働学習）を中心に進める。

到達目標

- 仲間と協働しながら、企画を立案し、それを効果的に提案するためのプレゼンテーションを実践できるようになる。
- 仲間と協働しながら、解決すべき課題を発見、整理して、その論点・解決策をわかりやすく提示するためのプレゼンテーションを実践できるようになる。
- 様々な目的に応じ、すでに習得した諸技法を応用的に展開しながら効果的なプレゼンテーションを構想できるようになる。

提出課題

- 企画プレゼン：作成資料（スライド等、グループごと）、振り返り（小レポート）、相互評価・講評
- 課題プレゼン：作成資料（スライド等、グループごと）、振り返り（小レポート）、相互評価・講評
- スピンオフ・プレゼン：期末課題（オンデマンド動画）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出課題1.および2.についてはいずれも、評価表を用いたグループごとの評価・講評を全体にフィードバックする。併せて、受講生同士による相互評価結果もフィードバックする。

評価の基準

以下の配分による総合評価を行い、総計60点以上を「合格」とする。ただし総計60点以上であっても、「5回以上欠席した場合」もしくは「以下1.から4.のうちいずれか1つでも0点であった場合」は原則として「不合格」とする。

- 企画プレゼンの振り返り（小レポート）：25点（％）
- 課題プレゼンの振り返り（小レポート）：25点（％）
- 期末課題（オンデマンド動画）：35点（％）
- 企画プレゼン・課題プレゼンにおける発表・評価活動への参加度（平常点）、相互評価（提出物）：計15点（％）

履修にあたっての注意・助言他

特になし。

教科書

.使用しない。.

参考図書

.授業中に適宜、紹介する予定。.

その他

授業中に適宜、プリント・電子ファイル・動画資料等の配布、共有、紹介などを行う予定。

授業計画

- オリエンテーション：本授業・学修の進め方、成績評価の方法、等
- イントロダクション：プレゼンテーション（前期『教養特講』を踏まえて）、ディスカッション・ブレインストーミングについて
- グループワークに向けて：アイスブレイキング、自己PR（プレゼン）、ディスカッションしてみる
- グループワークに向けて：ブレインストーミングしてみる
- 企画提案のプレゼンテーションに向けて：テーマの設定
- 企画提案のプレゼンテーション実践：企画立案
- 企画提案のプレゼンテーション実践：情報収集・分析、企画提案（プレゼン）準備
- 企画提案のプレゼンテーション実践：実践前半（グループ発表・質疑応答、相互・自己評価）
- 企画提案のプレゼンテーション実践：実践後半、相互評価に基づく優秀グループの選出、企画プレゼンの振り返り
- 課題提示のプレゼンテーションに向けて：解決すべき課題の発見・抽出
- 課題提示のプレゼンテーション実践：課題の精練と整理、情報収集・分析
- 課題提示のプレゼンテーション実践：課題・解決策提示（プレゼン）準備
- 課題提示のプレゼンテーション実践：プレゼン実践前半（グループ発表・質疑応答、相互・自己評価）
- 課題提示のプレゼンテーション実践：プレゼン実践後半、相互評価に基づく優秀グループの選出、課題プレゼンの振り返り
- スピンオフ・プレゼンテーション実践：独自にボツ企画・課題を復活させたり、派生の企画・課題を立ち上げて、オンデマンド動画でプレゼンしてみよう（＝期末課題）
- まとめ（総括・講評）
期末課題に対する（再）確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、
プレゼンテーション実践（グループ発表）の準備：情報収集・分析や、スライド等の発表資料作成を含む

復習として、
実践の振り返り（小レポート作成）
期末課題

等の準備学修に、週あたり平均4時間程度以上を要する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得を通して、全学共通のディプロマポリシーである、次の力を身につけることができる。

知識を知らずに転換することができる。論理的思考力を持った人材
課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる（情報発見力）
収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる（課題発見力）
さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

受講生のプレゼン実践に関する取り組みそのものが骨子となるという意味で、本授業は本質的に双方向型である。また技術的にも、動画、オンラインアンケート、クリッカー、電子ファイル共有システムといったICTを積極的に活用することにより、受講生の意見やアイデアを授業に直接反映させるとともに、授業内外での学習の促進や効率化を図る。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

特になし。